

目的 学校後における若年婦人層は各々の生活課題をもちながら、主体的・環境的要因によって学習活動は低調であり、また、定型的学習非参加者は非定型的学習への参加状況も同様である。さらに、学習活動の継続性にも欠ける既報の実態から、若年層の生活課題の中で家政教育領域で学習要求の高い“子どもの育成”を婦人の「自立の学習」と組み合わせて教材化し、学習活動の促進条件および開発した教授法を用い、学校後の学習機会における家政教育の学習方式、学習組織等の検討を試みることを目的とした。(本研究は、昨年度の総会で発表した「現代婦人の生活構造と家政教育」に連結する報告である。)

方法 広島県福山市 K地区を研究拠点として、ベアによる学習参加方式により、昭和56年10月～12月に7回の学習会を開催した。参加者は個人応募およびアウトリーチの実施による 計27ベアで、学習プログラムの作成にあたっては、若年層の学習要求と社会的、教育的必要を考慮してテーマを設定し講義者を決定した。隔週、2～3時間の学習時間は三層構造の学習組織をもち、学習展開モデルに沿う学習活動を実施し、アンケートおよび面接によって学習の成果を収集した。

結果 参加者の学習前と学習後の知識・理解・関心・態度等にみられる学習の成果については、1、ベア方式および三層構造による学習組織によって、婦人だけの承り学習から脱皮して、夫や他の家族と、ともに子育て問題を再確認し、学習内容に家族共通の学習課題とする意識が高まった。2、子育て問題は技術的側面からの問題意識ばかりではなく発想の転換の必要が認識された。

“子どもの育成”の視座を婦人の「自立の学習」に求めたことによる効果的な学習の成果が認められた。